

西海ブロック水産業情報

NO. 86 (平成26年7月～9月)

増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
	<p>豊前海</p> <p>【カキ養殖】 ・付着数は少ない。殻高は小さめながら身入りは良好。 ・全漁協(支所)で自家採苗を実施し、8月中旬に採苗適期となり、ほぼ十分な採苗数を確保。</p> <p>【栽培漁業】 ・クルマエビ、ヨシエビならびにガザミの中間育成を実施。 ・「かくや方式」によるアサリ増殖試験を実施。</p> <p>【資源管理】 ・漁協青壮年協議会が抱卵ガザミの再放流を実施。</p> <p>有明海 (ノリ養殖)かき殻糸状体培養は6か月が経過し、7割が成熟しおおむね順調。9月末から採苗に向けた熟度調整に入る。</p>	<p>有明海</p> <p>・マガキ養殖 今夏は、水温が30℃を超える日が7月30日のみで、9月末現在、フジツボ等競合生物の付着が少なく順調に成育している。</p> <p>・サルボウ養殖 末年度の漁獲対象となる個体は、貧酸素の発生が軽微であったことから、大量死は確認されていない。</p> <p>玄海</p> <p>【種苗生産】 ・マナコ:6月下旬より放流用種苗を配布。9月末までに計120万個(10～20mmサイズ)配布済み。 ・アカウニ:9月下旬から生産開始。</p>	<p>○標識放流 ・トラフグ(全長70mm、179千尾、有明海)、ホシガレイ(全長88mm、21千尾、有明海)、クルマエビ(全長50mm、101千尾、有明海)、ガザミ(全長15mm、89千尾、有明海)</p> <p>○放流魚追跡調査 ・トラフグ、ホシガレイ、ヒラメ、オニオコゼ、ガザミ、クルマエビ他について追跡調査を実施</p> <p>○養殖魚類の育種技術開発研究事業 【トラフグ】代理親魚技術によるトラフグYY雄作出試験実施中。優良親魚候補(早熟)由来種苗の形質評価試験実施中。</p> <p>【ホシガレイ】超雌個体の飼育試験実施中</p> <p>○良質な種苗の生産技術開発研究事業 【カワハギ】親魚確保中 【クロマグリ】種苗生産試験中</p> <p>○クロマガロの種苗生産に向けた飼養技術の高度化(プロジェクト研究) 【クロマガロ】シロギス幼魚・親魚の継続飼育中。○貝類の増養殖試験研究 ・タイラギ、マガキ(シングルシード)の養殖試験等を実施中 ・タイラギの種苗生産試験を実施し、72個体の稚貝を得た(0.6～1.2mm)</p>	<p>○クルマエビ養殖場等でピブリオ病が発生した(8月～9月)。 ○夏季水温が例年と比較して、2～4℃低く推移したためか、例年と比較して魚病発生が少ない傾向がみられた。</p>

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
<p>・スジアラ種苗生産:7月採卵で、1万2千尾を生産</p> <p>・クロマガロ種苗生産:7月受精卵を搬入し、5～10cmサイズ18尾を生産</p> <p>・イワカキ種苗生産:7月採卵で、130万個採苗し、稚貝育成中</p> <p>・7/28～8/1八代海中央部でCochlodinium polykrikoidesによる赤潮が発生(漁業被害なし)</p>	<p>○アカアマダイ種苗生産試験関連 予備試験として生産した平成25年産魚は、自然水温で継続飼育を行い、9月30日現在で日齢326となり、平均全長は10～14cmで18尾が生残している。 平成26年度種苗生産試験に向け、雌活親魚収集準備や採卵手法の検討等を行った。</p>		